

(80) 医療費適正化

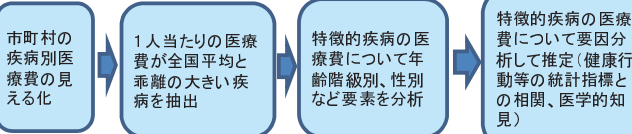
これまでは

令和5年度の**医療費目標** 4,813億円
(医療費適正化計画期間前(H29) 4,745億円)

- ・医療費適正化計画で医療費推計を「目標」として設定
- ・医療費を地域差(市町村差)、疾病別、前年度との増減比較の3つのアプローチにより分析

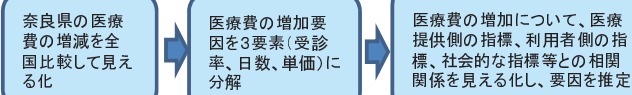
地域差分析 疾病別分析 (全国で先駆的取組)

医療費の地域差や疾病別の要因を明らかにし、地域の実態に即した医療費適正化の取組に活かす。



対前年度増減分析

奈良県の医療費の増減要因を医療の需給双方の観点から明らかにし、効率的な医療費適正化の取組に活かす。

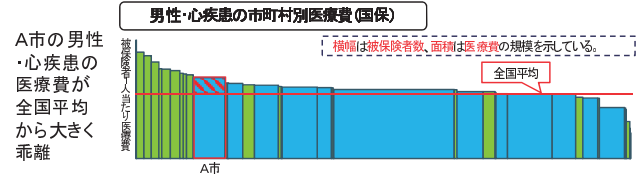


もっと良くするために

医療費分析をさらに進め、医療費適正化のために活用します。(6百万円)

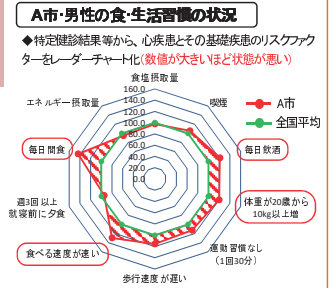
【分析例】 地域差分析 疾病別分析

① 市町村の1人当たりの医療費が全国平均と乖離の大きい疾病を抽出



② 当該疾病のリスクファクターとなる食・生活習慣の傾向を見える化し、要因を分析

A市の男性は、毎日間食、毎日飲酒等が全国平均より上回り、心疾患の要因となっている可能性



食・生活習慣の改善が必要

関係機関と連携した取組や、後発医薬品の使用促進、残業や重複・多剤投与の解消などを推進します。(3百万円)

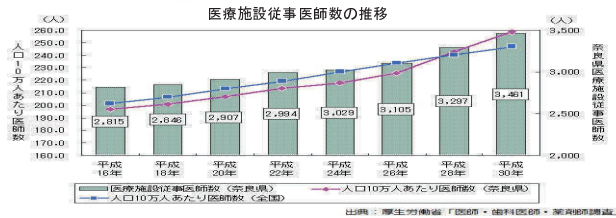
令和3年度予算案 9百万円

(81) 医師確保計画の推進、外来医療計画の策定

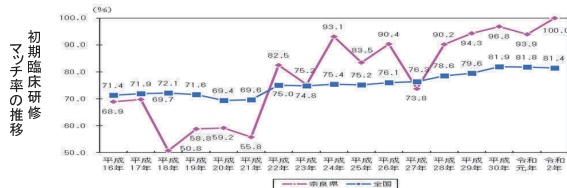
これまでは

奈良県内の勤務医師の確保に努めてきました。人口10万人あたり医師数は、全国平均を上回る状態となっています。

- ・平成30年国調査では、全国第20位で、前回調査(H28)からの増加率は全国第1位



- ・大学卒業後の臨床研修の募集に対するマッチ率は、全国史上初の100%を達成(R2募集定員分)



令和2年3月、「奈良県医師確保計画」を策定しました。

もっと良くするために

医師確保計画に基づいて、医師の地域間・診療科間の偏在解消や、医師が働きがいを持続けられるような勤務環境の整備にかかる取組を推進します。

- 医療従事者の勤務実態を把握の上、病院勤務医の勤務環境を改善(39百万円)

- 医師が不足する診療科等に従事する医師を養成(251百万円)

- ・修学資金制度
- ・臨床研修・専門研修体制構築
- 幅広い診療能力を持った医師(総合医)を養成(1百万円)

- 自治医科大学卒業医師の派遣等により、へき地で勤務する医師を確保、支援(174百万円)
- ・へき地勤務医師の確保養成
- ・医師少数区域勤務推進
- ・ドクターバンクによる医師確保

将来にわたり地域に必要とされる外来医療の機能が維持・確保されるよう取組を推進します。

- 外来医療に関する協議の場において、外来医療に関する情報共有・機能検討(1百万円)

- 診療所医師の在宅医療への参入促進などの取組に対し支援(12百万円)

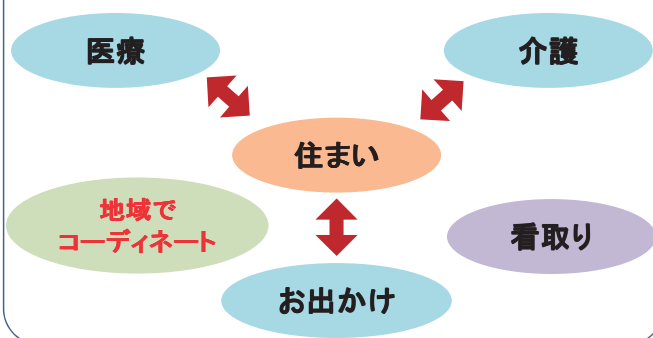
令和3年度予算案 478百万円

(82) 地域包括ケア・在宅医療の充実

これまでは

地域包括ケアシステムの構築を地域別に進めてきています。

地域包括ケアの充実



医療・介護資源の少ない南和地域のほか、各地で取り組みを始めています。

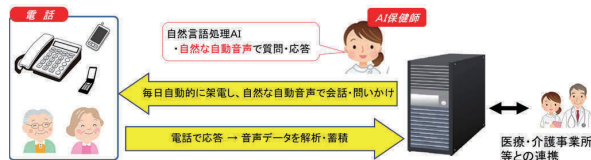
・地域別の医療・介護の諸課題について議論を深め、一定の方向性を見いだすため市町村と県との協議の場を設置

- 令和2年8月 第1回 県と西和7町との協議の場 (現状分析・意見交換)
- 10月 第1回 県と南和12市町村との協議の場 (現状分析・意見交換)
- 第2回 県と西和7町との協議の場 (在宅医療・介護の連携について意見交換)

もっと良くするために

南和地域の地域包括ケア・在宅医療の充実を進めます。

〇AIを活用した高齢者支援システムの構築(12百万円)



- [スケジュール]
R2 実証実験を実施
R3 本格実施に向けたモデル実施

〇(新)ICTを活用した地域リハビリテーションの推進(6百万円)

・南和地域において、ICTを活用したリハビリ専門職からの助言等を受ける仕組みを構築

その他の地域の取り組み

- 〇複数の職種にわたる機能を有した人材(奈良県版ラヒホイタヤ)を県独自で育成し、活動を支援(11百万円)
- 〇在宅医療の取組の支援(12百万円)
- 〇切れ目のない在宅医療と在宅介護の構築(1百万円)
- 〇認知症施策の推進(30百万円)
- 〇介護予防の推進(10百万円)
- 〇市町村の地域支援事業の経費負担(978百万円)

令和3年度予算案 1,060百万円

(83) 県立医大の移転、医大病院施設・外来棟の整備

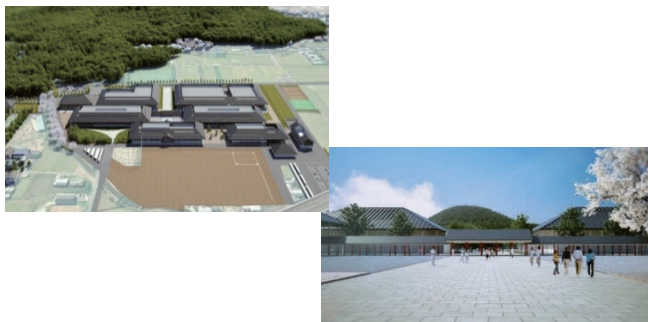
これまでは

県立医科大学の新キャンパスの先行移転分(教養教育部門及び看護学科の施設)は**令和6年度完成予定**。

〇整備コンセプト

藤原京をモチーフとして、奈良への愛着を醸成し、奈良県立医科大学ならではの医学教育を実践する場にふさわしい姿を具体化

令和2年度は、文化財発掘調査や造成設計、建築基本設計を実施しました。



整備イメージ

もっと良くするために

新キャンパス先行整備について、令和3年度中に文化財発掘調査を完了し、造成工事に着手します。また、先行整備分の建築にかかる実施設計を行い、令和4年度から建築工事に着手予定です。(1,567百万円)

現キャンパスの耐震応急対応、臨床医学研究棟の除却を行います。(523百万円)

(新)新キャンパス継続整備、医大附属病院新外来棟等の整備について、方針・手順等を検討します。
※新外来棟は新駅の新設に関わらず、現キャンパス敷地の南側に設置することで進めます。(30百万円)



新キャンパス敷地



新外来棟等附属病院のイメージ図 (南側に設置)

令和3年度予算案 2,120百万円

(84) 西和医療センターの移転・再整備の検討

これまで

西和医療センターは、西和地域における中核病院として、循環器疾患や小児科をはじめとする二次救急の受け入れにおいて重要な役割を果たしています。一方で、建設から約40年経過し、施設の老朽化が進んでおり、高齢化や人口減少が進む中、将来に向けた西和医療センターの機能や運営のあり方について検討していく必要があります。

○広域的な課題について、県と西和7町で協議の場を立ち上げ、西和地域の医療、包括ケアのあり方について協議を行いました。

○令和2年度は、前年度に引き続き、県と機構が連携して、西和地域の医療需給分析、西和医療センターに求められる医療機能や施設規模の検討を進めております。

西和医療センターのめざす姿(素案)

以下の6つの機能の充実を目指します。

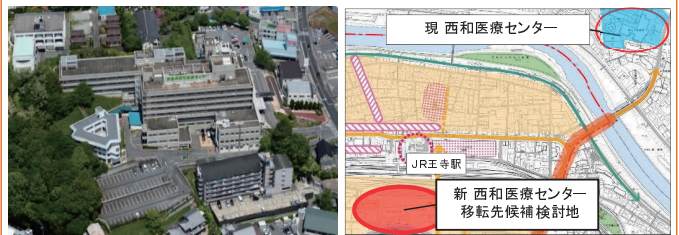
- ・救急医療
- ・重症急性期医療
- ・政策医療
- ・災害医療
- ・地域包括ケア
- ・人材教育

もっと良くするために

西和医療センターの現地での再整備は、病院機能が停止したり大幅な制限が必要になるため、**移転も視野に入れた検討**を進めます。

西和医療センターのあり方の検討を進めます。
(14百万円)令和5年度までに基本計画策定予定

○部門別機能の検討、医療機器等の導入の基礎検討、整備手法と整備費用の検討、関係医療機関との機能調整を行い、**令和3年度に基本構想の策定を目指します。**



現西和医療センター

(図面出典:王寺町地形図を加工)

病院本館南病棟の耐震応急対応のための実施設計及び工事を行います。**(53百万円)**

令和3年度予算案 67百万円

17 福祉の充実

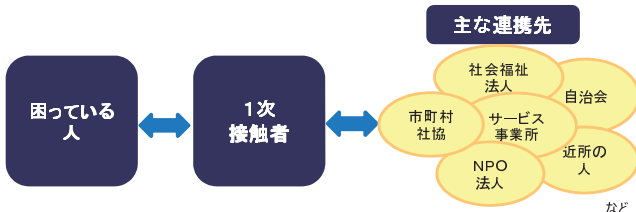
(85) 日本一福祉の進んだ地域を目指す「福祉の奈良モデル」の構築

これまで

福祉の奈良モデルの基本となる考え方は、

- ・困っている人を誰一人排除せず助ける
- ・地域の限られた人的、物的資源を活用してチームで活動する
- ・寄り添い型福祉モデルを構築

福祉の原理を探求し、奈良県が目指す「福祉とは何か」について検討を進めています。



○「包括的相談支援体制」のあり方調査を実施し、市町村域の**総合相談機能**の充実を支援

○地域の課題解決に資する人材の育成と活用を推進するため、市町村のモデル的取組支援や、CSW実践研修を実施

○市町村の地域福祉計画策定を支援

もっと良くするために

福祉に対する奈良県の思いは、「**県の役割をしっかりと果たしたい**」、「**福祉を徹底的にやりたい**」、「**県の努力で社会保障を充実させたい**」です。

県の果たすべき役割は、「**社会保障制度が十分機能しているかどうかの見極め**」、「**相談による実態の把握**」、「**対象者の事情に応じた適切なサービスへの接続**」と考えます。

○(新)福祉の奈良モデル構築の推進**(13百万円)**

・地域の実情に応じた包括的な支援体制を整備するため、専門家を交えて研究及び検討を行い、その検討結果を踏まえ、次期「奈良県地域福祉計画」(R4~R6)を策定。

- (1) 有識者による検討懇談会の開催
- (2) 包括的な支援体制に向けて、市町村の実情に応じた個別支援の実施 等

○県域における地域福祉の推進**(3百万円)**

・アウトリーチにより相談支援を行う人材(コミュニティソーシャルワーカー等)の育成、適切なサービスへつなぐ機能の強化

令和3年度予算案 16百万円

(86) 農福連携の推進

これまでは

障害者の収入確保に向けて、**障害者の働く場を農業分野に広げてきています。**

農業分野で障害者を理解する取組

- 農業分野における職場体験実習の実施
- 農福連携マルシェ(販売会)の開催

農福連携
マルシェ



障害者側が農業を知る取組

- 障害者就労施設へ専門家を派遣、農業にかかる人材育成研修を実施

農業側と福祉側をつなぐ取組

- 農福連携コーディネーターを配置し障害者の農業分野での就労をマッチング

障害者の農業雇用を支援

- 農業参入に対するワンストップ相談
- 障害者雇用をする農業者に設備投資資金の利子補助

もっと良くするために

農福連携の**具体的取組を開始**します。

○障害者就労施設等が新たに農地を確保し、農業経営を開始**(1百万円)**

- ・経営計画等の策定に対する支援
- ・専門家派遣や農林振興事務所による指導
- ・実習のコーディネートによる障害者雇用の促進

○特定農業振興ゾーンにおける農福連携の推進**(1百万円)**

- ・特定農業振興ゾーンにおいて、障害者を雇用して農業に取り組む事業者に対する支援の仕組みを検討
- ・障害者雇用に取り組む事業者を掘り起こし
- ・障害者雇用を円滑に進めるための支援

○これまでの、障害者の働く場を農業分野に広げていく取組は**継続(6百万円)**

令和3年度予算案 8百万円

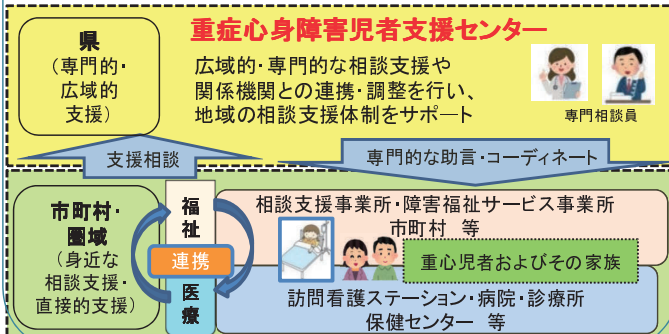
(87) 重症心身障害児(者)の居場所の確保

これまでは

重症心身障害児(者)の居場所(※)は、本人と家族にとって**身近な地域にあることが必要とされるので、新たな設置とその場所の検討を進めてきました。**(※) 日中活動の場およびレスパイトのための医療型短期入所等

県中部・東部・南部には少ない、または無いのが現状であるため、**居場所づくりについて検討を進めてきました。**

県全体の重症心身障害児(者)支援の中核となる機能が必要なため、**県障害者総合支援センター内に「重症心身障害児者支援センター」を令和3年1月に設置しました。**



もっと良くするために

県内全域で、**身近な地域において生涯にわたり支援を受けられる体制にします。医療機能(病院)と療育機能の最適な連携を図ります。**

拠点の整備方針

【県北部】

医療・療育の両方の機能を担う入所施設が4つ存在
奈良医療センター
東大寺福祉療育病院
バルツァ・ゴードル
やまと精神医療センター

【県東部】

医療：**宇陀市立病院**
 療育：病院内または近隣で確保
 令和4年度目標

【県中部】

医療：**県総合リハビリテーションセンター**
 療育：**県障害者総合支援センター(わかくさ愛育園)**
 令和4年度対象拡大

【県南部】

医療：**五條病院**
 療育：病院内または近隣で確保
 令和4年度目標

【県全体の中核】

奈良県重症心身障害児者支援センター

○(新) 中部・南部・東部地域における居場所づくりの推進

○重症心身障害児者支援センターの運営

令和3年度予算案 23百万円

(88) 出所者の更生・就労支援

これまで

令和2年4月に「奈良県更生支援の推進に関する条例」を施行しました。

【目的】

- ・国の司法行政と地域の福祉を繋ぐ
- ・就労の場づくりを行う等により社会復帰を支援
- ・誰もが地域の一員として包摂される社会の実現

【手法】

更生支援に関する施策を一体的かつ効果的に実現するため、**法人を設立**して、次に掲げる事業を実施

- ・罪に問われた者等を**雇用、就労の場を提供**
- ・**住居を貸与**
- ・**職業訓練、社会的な教育の実施**

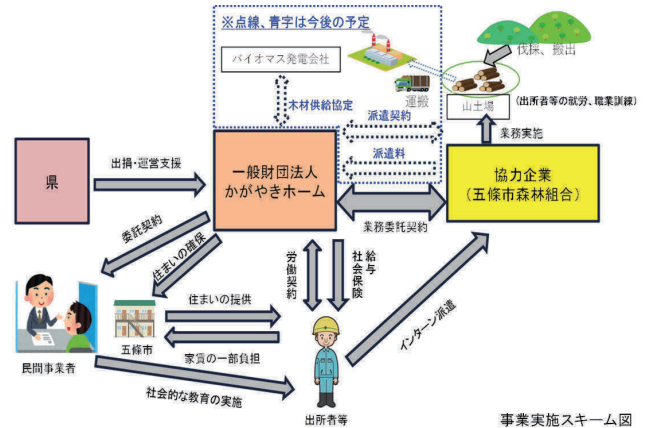
令和2年7月、条例に基づき「一般財団法人かがやきホーム」を設立、**9月に2名雇用**しました。

- ・五條市森林組合での週4日の林業研修
- ・法務教官等の専門家による週1日の社会的な教育
- ・五條市内に住居を確保
- ・財団職員によるきめ細かな相談体制の構築

もっと良くするために

一般財団法人かがやきホームにおいて、**出所者を雇用、社会的な教育や林業研修を実施し、社会復帰に向けた具体的な支援を進めていきます。**

○財団が行う出所者の就労研修・社会的な教育への支援等



- ・令和2年12月には**雇用した2名の誕生日会**を地元の方々に開催していただきました。
- ・令和3年度中に**更に2名を財団で雇用**します。

令和3年度予算案 67百万円

18 だれでもいつでもどこでもスポーツできる環境づくり

(89) スポーツ施設の整備・充実

これまで

奈良県での2巡目国体(国民スポーツ大会)開催について招致意向を表明(令和2年2月)。令和13年の開催が内々定。

国民スポーツ大会開催に向けて、主会場等に必要な施設の整備について、検討を進めてきました。

国民スポーツ大会主会場に必要な施設

- ・第1種陸上競技場
400mメイントラック、サブトラック、投てき練習場
- ・アリーナ
メインアリーナ及びサブアリーナ・武道場等併設の総合体育館



陸上競技場
(R1茨城国体総合開会式)

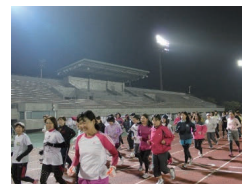


アリーナ

もっと良くするために

令和13年の国民スポーツ大会の主会場になるとともに、子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、アスリートから健康志向の人々まで**多世代・多様な人々が、日常的に集い、運動・スポーツ、健康増進、地域の経済活性化**につながるスポーツ施設の整備を推進します。

- ・スポーツ施設等の整備に向け、橿原市及び磯城郡3町(川西町、三宅町、田原本町)から要望を受け、協議を進めています。
- ・まちづくりの中核となる多機能・複合型のスポーツ施設、日常的に利用される本県にふさわしい規模の施設の検討等を進め、基本計画をとりまとめます。



ナイトラン(夜間無料開放)で健康づくり



多世代が集う運動・スポーツの場

令和3年度予算案 31百万円

(90) スイムピア奈良(県営プール)の施設充実、まほろば健康パークの機能強化

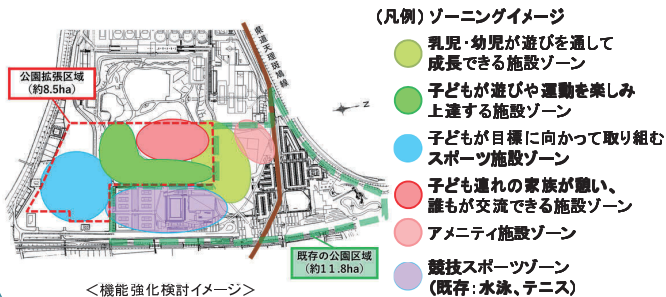
これまでは

国際大会や全国大会等の招致も視野に入れ、「**スイムピア奈良**」50m屋外プールの**観客席増設や屋根等の整備**を進めています。令和3年夏のオリンピック事前合宿等の利用を予定しています。



膜屋根及び観客席増設工事 施工状況 (R2.11.19)

まほろば健康パークに近接して約8.5haのオープンスペースがあります。それを利活用した公園機能強化の検討をしています。



もっと良くするために

まほろば健康パークの拡張区域の機能強化について、令和3年度に**基本計画**を策定します。基本コンセプトは「**子どもが憩い楽しみ、遊びや運動を通して成長する公園**」としています。(17百万円)



民間活力導入検討等を行い、健康増進施設、競技施設、管理等施設及び公園機能の充実を目指します。(617百万円)

令和3年度予算案 634百万円

(91) スポーツ振興ビジョン策定

これまでは

いつでもどこでも誰でもスポーツを楽しめる環境整備を目指してきました。

- 現行の「スポーツ推進計画」は令和4年度までですが、その先を見据えたビジョンの策定が必要です。
- 子どもから高齢者まで、障害のある人もない人もスポーツを楽しめる環境づくりが必要です。
- 自然環境に恵まれた奈良県で暮らしの身近なところでの運動は健康増進の要の一つです。
- イベント開催を通じたスポーツ振興を図っています。



2019奈良マラソン



総合型地域スポーツクラブの活動 (ノルディックウォークイベントの開催)

もっと良くするために

本県のスポーツ振興施策を体系的に行うため、中長期的な目標を含む**ビジョン**を令和3年度中に策定します。

<ビジョンの考え方(案)>

- ライフステージやライフスタイルに応じて、いつでも、どこでも、誰でも生涯にわたってスポーツを楽しんでいただける**機会づくり、施設の整備**を行います。(環境整備と地域の活性化)
- 新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、**健康維持のための運動・スポーツに取り組む機会**を創出します。(健康づくり)
- 総合型地域スポーツクラブの育成・活性化など**地域の団体や指導者等の人材育成**に取り組みます。(人づくり)

令和3年度予算案 1,189百万円 [債務負担行為 59百万円]